



羽黒の子

甲府市立羽黒小学校
学校だより
令和4年10月12日
校長 石川 等

【学校教育目標】「確かな学力を身につけ、心豊かで、心身ともにたくましい子どもの育成」

本校の学力・学習状況調査の結果について

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月19日（火）に全国の小中学校において実施されました。本年度の全国学力・学習状況調査の調査内容は以下のような構成となっています。

①教科に関する問題

国語科・算数科ともに、従来の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に区分するといった整理を見直して、一体的に調査問題が構成されています。

このため、従来は、「国語A・算数A」「国語B」「算数B」(45分×3コマ)というかたちで実施されていた調査も、今年度も「国語」「算数」と「理科」(3年に一度の実施)というかたちで、それぞれ45分ずつ実施されました。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

この調査の目的は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活指導などに生かしていくことにあります。

7月末に文部科学省から本校児童の調査結果が送付されてきましたので、調査結果について分析を行ってまいりました。このたび、分析が終了いたしましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせいたしますこととなりました。(本校のHPにおいても同じ内容について公表をおこないます。)

分析結果の概要

1 本校の教科に関する問題の状況（全国・山梨県との比較）

本調査における結果については、山梨県教育委員会による分析にならない、全国平均正答率との差が±5%の範囲にある場合は、全国平均とほぼ同等であると考えております。

本校の教科に関する問題の結果は、次のようになっています。

- ①国語：全国とほぼ同等となっています。 ②算数：全国とほぼ同等となっています。
③理科：全国よりやや下回っています。

以上の結果からは、2つの教科において「知識」面の定着がよいことや、複数の情報を読み取りながら回答するような「活用」問題に根気よく取り組むことができていることがわかります。

	国語 正答率	算数 正答率	理科 正答率
全国 平均	65.6	63.2	63.3
山梨県平均	64	62	62

2 本校の教科に関する問題における主な課題

今後、さらに学力を向上させていくために、課題となる点について抽出してみました。(正答率の低い問題について4つずつ抽出しています)

なお、調査問題については、国立教育政策研究所 HP (<https://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>) において閲覧できます。

【国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨
1ー	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いを理解する
2三	【山村さんの文章】の <input type="text" value="B"/> に入る内容として適切なものを選択する	表現の効果を考える
3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける
3三ウ	【文章2】の中の ___ 部ウを、漢字を使って書き直す（したしむ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う

【算数】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨
1（1）	1050×4 を計算する	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる
2（4）	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す	百分率で表された割合を分数で表すことができる
3（1）	表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる
4（1）	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる

【理科】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨
2（1）	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	メスシリンダーという器具を理解している
2（3）	水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ	自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる
3（2）	実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ	問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している
3（4）	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる

3 各教科における主な課題を改善するための手だて

【国語】

☆漢字を文の中で使用させることについて、日々の学習指導において繰り返し練習したり、書いた文章を読み返す中で、正しい使い方を習得できるよう、意識させるようにする。

☆話す場面、書く場面においては、自分の考えが正確に伝わるように、話し言葉・書き言葉それぞれの特質に配慮した使い分けを身につけることが大切である。そのために、聞き手（相手）の立場に立った言葉や話し方の工夫について考えられるよう指導していく。

☆表現の効果を考えると、想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしていくことである。そのために、感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目して読むことに取り組ませていく。

☆「共有」に関する指導事項の定着を図るために、伝え合う経験を積み重ね、自分の文章のよいところを見つけたら、それを言葉で表したりすることに取り組ませる。



【算数】

☆（整数）×（整数）の乗法の計算をすることができるようにするため、被乗数を10倍にすると積も10倍になることや空位のある整数の乗法では位に気を付けて処理するなど、乗法に関して成り立つ性質を生かして計算できるようにしていく。

☆伴って変わる二つの数量を見だし、一方の数量に伴って他方の数量がどのように変化するかに着目して、未知の数量を求めることができるようにすることが重要である。その際、表に整理し、二つの数量の関係に着目したり、二つの数量から割合を求めることができるだけでなく、示された割合になる数量を考えることができるようにしていく。



☆問題場面の数量の関係について、四則を混合させたり（ ）を用いたりして一つの式に表すことができるようにすることが重要である。そのために、児童が考えた式を比べることを通して、数量の関係を簡潔に表すことができるよさを分かるようにしていく。

☆図形の学習では、図形の意味や性質を基に、辺の長さや角の大きさに着目し、図形の構成の仕方について考察できるようにすることが重要である。そのために、例えば、正三角形の意味や性質を基に、コンピューターを用いて正三角形を作図するとき、正三角形のプログラムを基に作成した正三角形のプログラムについて見直し、改善する活動などに取り組ませる。

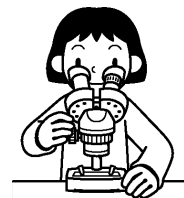
【理科】

☆目的に応じて器具や機器を選択し、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができるようにするため、どの器具や機器を使用するとよいかについて操作の手順と併せて考えることができるような学習活動を行う。

☆観察、実験の結果を基にして、予想について検討して、改善し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにするためには、観察、実験の結果が出た後に、予想と結果について、それらの整合性を調べ、自分の考えをより科学的なものに変容させることができるようにすることが重要である。そのために、実験で得られた結果を予想と照らし合わせ考察について検討して、改善し、より妥当な考えをつくりだす場面を設定していく。

☆観察、実験などの過程やそこから得られた結果を適切に記録するなど、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができるようにするためには、問題を解決するのに必要な記録内容の検討や確認ができるようにすることが重要である。そのために、問題を的確に把握し、何を記録する必要があるかについて検討する場面を設定していく。

☆観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにするためには、結果を事実として分析して、解釈し、それを結論の根拠として表現できるようにすることが重要である。そのために、結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定していく。



4 質問紙調査の結果から見られる特徴

本校児童の生活習慣や家庭学習などの状況から特徴として挙げられる点についてまとめます。

【基本的生活習慣等について】

- 「朝食を毎朝食べていますか」という問いには、95.2%が肯定的な回答をしています。
- 「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」という問いには 85.5 %、「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」という問いには、90.3 %が肯定的な回答をしています。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という問いには、85.5 %が肯定的な回答をしています。

【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等について】

- 「自分には、よいところがあると思いますか」という問いには、82.3 %が肯定的な回答をしています。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」という問いには 88.7 %が、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」という問いには、93.5 %が肯定的な回答をしています。
- 「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」という問いには、83.9 %が肯定的な回答をしています。
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という問いでは、それぞれ 91.9 %、95.2%が肯定的な回答をしています。
- 「友達と協力するのは楽しいと思いますか」という問いでは、91.4 パーセントが肯定的な回答をしています。

【学習習慣等について】

- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という問いでは、71.0 %が肯定的な回答をしています。
- 平日の家庭学習の時間については、「1時間以上」が 64.5 %。このうち、「3時間以上」が 4.8 %。「30分以下」あるいは「全くしない」は 8.7 %となっています。
- 平日の読書に使う時間については、「30分以上」が 45.2 %。このうち「2時間以上」が 4.8 %。「30分未満」あるいは「全くしない」は 54.9 %となっています。
- 「新聞を読んでいますか」という問いでは、それぞれ 30.6 %が肯定的な回答をしています。

【地域や社会に関わる活動の実施状況等について】

- 「地域の行事への参加」については、53.3%が肯定的な回答をしています。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがあるか」では、80.6%が肯定的な回答をしています。

5 質問紙調査の結果から改善していきたい点

【基本的生活習慣等について】

☆「早寝・早起き・朝ご飯」についてはとても良いと考えますが、さらに向上させるためには、「早寝」「早起き」について、「自分で」という意識をもたせたいところです。とりわけ、「自分で起きる」ということが自立に向け大切な観点になってきます。

☆「携帯・スマホ・PCの使い方」については、家庭で約束したことを守っている児童が多い結果となっていますが、基本的な生活習慣をつくっていくためにも、保護者や地域と連携し、継続した取組を行っていただければと考えます。

【規範意識・自己有用感等について】

☆規範意識も高く、「社会のために役立つ人になりたい」という思いをもつ児童もとても多いという一方で、自己有用感をもてていない児童が少なからずいます。「自分のしたことが誰かのためになった」という体験を数多くさせるなかで、自信をもたせるようにしていきたいと考えます。

☆「人のために」「友達と協力して」という意識を高くもっていることがわかります。グローバル化が急速に進展する中、自分と考えや習慣の違う人々と交流する中でも、こうした意識で関わりあうことができるような力を付けていくことができればと考えます。

【学習習慣等について】

☆中学校生活に向け、自分でしっかり計画を立てて学習に取り組むことについて意識付けをしていきたいと考えています。

☆本年度、重点的に取り組んでいる家庭学習の時間についても、「学びのてびきや」「レコーディングスタディー」への取組を通しながら、声かけを継続していきます。

【地域や社会に関わる活動の実施状況等について】

☆「接続可能な社会づくりの担い手」として成長していく子どもたちにとって「地球規模で考え、足元から行動せよ」(Think globally, act locally)という姿勢が求められていきます。地域社会の問題への関心や地域社会が抱える課題について考えることは、こうした姿勢をつくるための第一歩となります。学校・家庭の双方において子供たちと話し合うようなことができればと考えます。

~~~~~ ご家庭の皆様へ ~~~~~

羽黒小学校では、子供たちの学力向上を目指して、
・1人1台端末等のICTを活用したわかる授業、楽しい授業
・動き出したくなる課題の提示、学びの過程がわかる板書とノート指導の充実
・自力解決の時間の確保やペアやグループ学習・全体検討など場の設定
・読解力、記述力を育む言語活動の充実
等、授業改善に取り組んでいます。

今後も、全国学力学習状況調査の分析結果を参考に、学力向上を目指し、教職員一丸となってわかる楽しい授業に努めてまいります。

また、昨年までの「プログラミング教育推進事業の研究指定」の研究の成果を継続していくとともに、さらには、GIGAスクール構想による一人一台端末(ChromeBook)を効果的に使用しながら、子供たちと共に、一歩ずつ実践や経験を積み重ね、不断の授業づくりにも生かしていきたいと考えております。

是非ご家庭におかれましても、引き続き、「家庭学習のてびき」を参考にいただき、子供たちへの励ましの声かけや学習環境を整えるなど、ご理解とご協力をお願いいたします。

